

導入事例

マトリクス認証[®]を使った、デバイスのいらぬワンタイムパスワード

SECUREMATRIX[®]

長野県茅野市

Citrix Presentation Server[®]と SECUREMATRIX[®]との連携で 自宅でのセキュアな業務環境を実現

課題

- 教職員の情報持ち出しによる情報漏えいを防止
- 異動の多い職場環境において管理負荷を抑えながらセキュリティを強化

効果

- 職場PCのシンクライアント化、自宅への業務環境開放により情報持ち出しをゼロに
- トークンなどの配布物がなく、職員異動時の管理負荷を軽減

導入企業



長野県茅野市

<http://www.city.chino.lg.jp>

会社概要

藝科高原の自然に抱かれ、縄文時代から連なる歴史ある街としても知られる長野県茅野市。市民参加型ネットワーク「茅野市どっとネット」の整備など、先進的取り組みにも積極的。



茅野市役所

企画総務部 地域情報推進課 情報化推進係長 両角 直樹 氏



茅野市役所

企画総務部 地域情報推進課 情報化推進係 小田島 太一 氏

導入の経緯

長野県茅野市内の小中学校では、教員向けにPCが配布され、成績処理などの業務に使われていた。導入時期の違いなどからOSやアプリケーションのバージョンが多岐に渡っており、管理負荷は増大する一方だった。WindowsNTやWindows 98など古いOSを搭載したものも多く残っており、セキュリティ上の不安もあった。また、教員は生徒の成績をはじめ個人情報を取り扱うことが非常に多く、情報漏洩対策が大きな課題となっていた。ノートPCやUSBメモリの紛失、盗難による情報漏洩や、ウィルス感染した自宅PCから漏洩する危険性

もある。これらの課題を一挙に解決すべく2007年12月に導入されたのが、Citrix Presentation Server[®]を使ったシンクライアントシステムだ。個人情報やデータを端末に残さずサーバで管理し、セキュリティの大幅な強化を行なった。

シンクライアント化と同時に、PCの持ち出しやUSBメモリを利用した情報の持ち帰りは禁止された。一方で、自宅でも業務ができるように、自宅からもシンクライアントシステムにアクセスできるよう、システムが構築されている。

導入決定のポイント

教員は学校にいる時間は生徒への指導に追われることが多く、成績処理やこまごまとした業務を時間外に自宅で行うことが多い。その際、仕事の必要なデータをノートPCごと持ち帰ったり、USBメモリなどの媒体を使って持ち帰っていた。シンクライアント化にあたり、こうしたセキュリティ上のリスクを一掃したいと茅野市では考えていた。しかしシンクライアント化以降の情報持ち出し禁止を打ち出した際、教員からは強い反発が巻き起こった。育児中や介護の必要な家族を持つ教員を中心に、自宅への仕事持ち帰りは避けられないという意見が寄せられた。とはいえ、個人情報取り扱いの環境をセキュアにするのは時代の要請でもある。お互いの主張をすり合わせるために2週間に1度のミーティングを行なうかわり、自宅でのセキュアな業務環境について模索が続けられた。CitrixにはAccessGateway[®]という製品があり、PresentationServer[®]と組み合わせることでイン

ターネットに向けて暗号化された状態でシンクライアントシステムを開放できる。自宅からもシンクライアント環境を利用できれば、職員室と同じ環境で仕事ができ、情報を持ち歩く必要がない。これでPCやメディアの紛失、盗難を徹底的に排除できる。

「課題となったのは、インターネットを経由したアクセス時の認証方式でした」

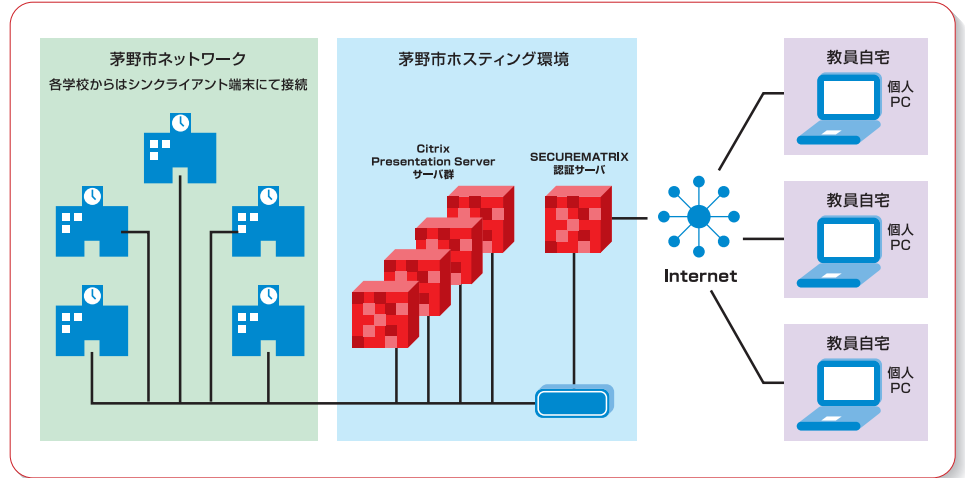
検討時の課題を、企画総務部 地域情報推進課の両角氏はそう語る。通常のID、パスワードでは十分なセキュリティを確保できないと考えたのだ。それを補うため、2要素認証やワンタイムパスワードの導入が検討された。イベントやセミナーにも足を運び、いくつかの製品を検討した結果、採用されたのがSECUREMATRIX[®]だった。トークンなどの配布物がなく、ユニークながらわかりやすいイメージ認証方式が受け入れられての選択だった。



実際の導入までの課題

2007年12月、市内13の市立小中学校にシンクライアント端末が配布され、約350名の教員は業務で利用する情報はデータセンターに設置されたCitrixPresentationServer®に集約された。自宅で業務を行なう場合は、自宅のPCとCitrixAccessGateway®とをSSLVPNで結び、その上でシンクライアント環境を利用する。AccessGateway®へのアクセス時に、SECUREMATRIX®を使った個人認証が行なわれる。導入時にはすべての小中学校を実際に訪問し、シンクライアントの使い方とともにSECUREMATRIX®の認証方法についても操作説明を行なった。イメージ認証の利用方法は、実際の操作を見てもらえば一目瞭然であり、抵抗なく教員に受け入れられた。

■ 長野県茅野市 構成概略図



現在の運用状況

実際の運用が始まると、自宅にいながら職員室と同じデスクトップ環境を利用できる利便性が評価され、短期間のうちに利用者は増加した。導入から数ヶ月後の2008年3月には、同時接続数のライセンス数上限に近いアクセスも確認されている。シンクライアントの利便性の高さやSECUREMATRIX®による認証の手軽さともたらした結果だろうと、両角氏は語る。2008年夏休みにも多くのアクセスが記録されていると教えてくれた上で、アクセス傾向について次のように分析した。「お盆休みもあったので、帰省先などからも利

用されているのだと思います。どこにいても同じ環境を利用できる利便性への理解が広まっている事を実感しています」小中学校は市の施設だが、そこで働く教員は県職員だ。異動の際も市を超えて動くため、シンクライアントシステムや自宅からの業務のためのIDは異動のたびにメンテナンスする必要がある。「トークンなどの配布物があったら、異動のたびにものすごい手間になるでしょうね」企画総務部 地域情報推進課の小田島氏はそう言って、運用上のコストや管理負荷の低さを指摘した。実際のID管理はシンクライアントシス

テムとともにインテグレータに依頼されているが、トークンの管理などが発生すれば現場でも対応せざるを得ない。そうした心配がないのがいいところだという。「今回のシンクライアント化が教員に受け入れられたのは、自宅に開放したからに他なりません。SECUREMATRIX®がなかったら、実現していないかもしれませんね」両角氏はそのように、SECUREMATRIX®への満足度を語ってくれた。



SECUREMATRIX®の採用により、教員の自宅業務をサポートすることもできるようになり、小中学校のシンクライアント化は大成功をおさめた。数年後までのメンテナンスを考慮すればコストも抑えられ、高いセキュリティを確保できるシステムとして評価され、今後は庁内の業務にも取り入れていく予定だ。「現在、隣接する諏訪市と合同でシンクライアントを使った業務システムを構築し、共用していく計画が進められています。これも、SECUREMATRIX®により利用者である教員の要望に応えられ、シンクライアントへの評価が高まった結果だと考えています」と、両角氏は語ってくれた。

※記載内容は取材当時(2009年12月)のもです。



開発元

株式会社シー・エス・イー

http://www.cseltd.co.jp

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-1 A-PLACE 渋谷金王
 TEL.03-5469-6026 FAX.03-5469-6037
 E-mail: sales@cseltd.co.jp

●お問い合わせ先